


演習担当 教員	三浦麻子	教授	専門領域 キーワード	社会心理学 情報行動学 ネットワーク・コミュニケーション 心理データ解析
			個人研究室	F号館1階

	<p>私の研究関心は社会心理学を学び始めた当初から一貫して、コミュニケーションやインタラクションが新しい「何か」を生み出すメカニズムを解明することです。そのため、そのアウトプットとしての意思決定や創造性、ないしはそのプロセスにおける感情表出や対人ネットワークなどのあり方に興味をもち、特に現在はインターネットを介したオンライン場面に注目した検討を行っています。研究手法としてはソーシャルメディア等の大規模ログデータを対象とした内容分析が中心で、さらに実験室実験や社会調査など複数の手法を組み合わせることが多いです。また、情報学や工学、政治学や経営学など、異分野とのコラボレーションにも長年にわたり積極的にかかわっています。</p> <p>研究室ウェブサイト: http://asarin.team1mile.com/ Twitter ID: @asarin</p>
---	---

【秋学期担当科目(2年生が履修可能なもの)】
・心理科学基礎統計 ・総合N(分担)

【所属学会】
日本心理学会・日本社会心理学会・日本グループ・ダイナミクス学会 日本選挙学会・人工知能学会 Association for Psychological Science Society for Personality and Social Psychology

【代表的な業績】
(2014-2016: オンラインで無償入手可能な日本語論文のみを抜粋)
<p>三浦麻子・小林哲郎 (2016; in press). オンライン調査におけるSatisficeを検出する技法: 大学生サンプルを用いた検討 社会心理学研究, 32(2).</p> <p>三浦麻子・楠見孝・小倉加奈代 (2016; in press). 福島第一原発事故による放射能災害地域の食品に対する態度を規定する要因: 4波パネル調査による検討 社会心理学研究, 32(1).</p> <p>稲増一憲・三浦麻子 (2016). 「自由」なメディアの陥穽: 有権者の選好に基づくもうひとつの選択的接触 社会心理学研究, 31(3), 172-183.</p> <p>三浦麻子・鳥海不二夫・小森政嗣・松村真宏・平石界 (2016). ソーシャルメディアにおける災害情報の伝播と感情: 東日本大震災に際する事例. 人工知能学会論文誌, 31(1), NFC-A_1-9.</p> <p>三浦麻子・小林哲郎 (2015). オンライン調査モニタのSatisficeはいかに実証的知見を毀損するか. 社会心理学研究, 31(2), 120-127.</p> <p>三浦麻子・小林哲郎 (2015). オンライン調査モニタのSatisficeに関する実験的研究 社会心理学研究, 31(1), 1-12.</p> <p>村山綾・三浦麻子 (2015). 非専門家の法的判断に影響を及ぼす要因—道徳基盤・嫌悪感情・エラー管理に基づく検討— 認知科学, 22(3), 426-436.</p> <p>三浦麻子・小森政嗣・松村真宏・前田和甫 (2015). 東日本大震災時のネガティブ感情反応表出——大規模データによる検討—— 心理学研究, 86(2), 102-111.</p> <p>村山綾・三浦麻子 (2015). 被害者非難と加害者の非人間化—2種類の公正世界信念との関連— 心理学研究, 86(1), 1-9.</p> <p>田淵恵・三浦麻子 (2014). 高齢者の利他的行動場面における世代間相互作用の実験的検討 心理学研究, 84(6), 632-638.</p> <p>村山綾・三浦麻子 (2014). 集団討議における葛藤と主観的パフォーマンス—マルチレベル分析による検討—. 実験社会心理学研究, 53(2), 81-92.</p>

Q1. 心理科学を始められたきっかけは？

中学・高校とキリスト教(カトリック)校に通っていて、多くの宗教者と関わる経験をした結果、なぜ人間は神のような絶対的な存在を心に置き、それを人生の指針にすることがあるのだろうか。なぜ人間には宗教が必要なのだろうか、という疑問をもったことがきっかけです。その頃は「私の人生に神なんていらんわ。自分のことは自分で決めるからほっといて」と思っていたので...。ただ、まだそれを「研究」することには着手していません。

Q2. 先生の分野で尊敬する学者は誰ですか？

「尊敬」する人は特にいません。学者かどうかに関わらず、どうも他者を「尊敬」という気持ちが薄い人間のようなです。もちろん、人に対するときはずっと一定以上の敬意を払うように努力しています。目標にしている研究者は、狩野裕(大阪大学)と池田謙一(同志社大学)の両氏。

Q3. 研究者としての目標をあげてください。

誰かやどこかからの借り物ではなく、自分自身が興味を抱いた、ずっと愛することのできる研究テーマを追究し続けること。

幸福で豊かなネットワーク社会を築く一助となるような研究をすること。

Q4. 先生の教育方針をあげてください。

心理学を学ぶことで、人や社会を客観的に見つめるまなざしを手に入れてほしいと思って指導しています。心理学は「学べばこの職に就ける」といったようなピンポイントの実学ではないかもしれませんが、人生のあらゆる場面で役に立つ学問だ、ということを知ってもらえればと思います。

Q5. 学生に望むことは？

大学時代には、その後の長い人生で役に立つたくさんの「貯蓄」をしてほしいです。そのためにも、よく学び、よく遊び、たくさんの出会いを経験してください。

Q6. どのような学生がゼミに来てほしいですか？

「おもしろい」ヤツ。

真摯な態度で学業に取り組もうとする心意気を持った人。進取の気性がある人。

私自身がとても促進焦点型(利益を得ることに接近し、利益が得られないことを回避するタイプ)なので、予防焦点型(損失を防ぐことに接近し、損失を防げないことを回避するタイプ)の方は、お互いにとってうまくやっていくのが厳しいかもしれません。

【指導した卒業論文(2015年度卒業生)】

話し手の非言語的行動が対人魅力に与える影響

偶発的・環境的アンカーによるアンカリング効果—Critcher & Gilovich (2008)の直接的追試を経て—

笑顔の有無が女性の魅力度評価に及ぼす影響

清潔さは道徳判断を鈍らせるのか?—Schnall, Benton, & Harvey (2008)の直接的追試実験—

大学生活における社会的迷惑行為に対する認知と頻度の関連—公的・私的自意識および社会・個人志向性に着目して—

初対面の会話における同調と主張の組み合わせが対人魅力に及ぼす影響

実験者の好意的な態度が参加者のパフォーマンスに及ぼす影響—表情と視線に着目して—

実験課題における教示方法の違いが逸脱行動に与える影響

売りたいものを売るためには～魅力効果の観点から～

オンラインコミュニケーションにおける感情伝達とその解釈が会話相手および会話の印象に与える影響—LINEスタンプを用いた実験的研究—

恋人関係における葛藤と関係満足度の関係—喧嘩するほど仲が良いのか?—

同音異義語の単純接触による潜在的態度の変容

発話中のジェスチャーは説得力を増すのか?—態度変容と印象形成に着目して—

気分誘導が虚偽判断に与える影響—ネガティブな時、人は疑い深くなる?—

「切る」動作が感情に及ぼす影響—紙を切ると嫌な気分も切れるのか?—

インターネットにおけるプライバシー意識—日中の大学生の比較—